

2025年度(令和7年)自己評価結果報告書

学校法人今村学園
 幼保連携型認定こども園
 いまむらこどもえん
 小規模保育園neccoきたその
 小規模保育園neccoたかつき

園の概要

本園は1933年～2014年度まで82年間現在地で学校法人今村学園 高槻幼稚園として、保育・教育を進め、園舎全面改築を経て2015年4月より「幼保連携型認定こども園いまむらこどもえん」として再発足した。園の理念のもと、乳児は育児担当保育により、保育者との愛着関係を結び子どもの毎日の生活の安定と安心を大切にしている。幼児については自然に触れ、様々な感覚を使って直接体験すること、物事を敏感に感じ取ることを、表現することを通して「自分に

命があること、それは何物にも代えがたい大切なこと。」ということを実感できるようにと考えている。またそれと同時にお互いの存在を尊重し仲間と共に様々なものやことを分かち合い、共に育ち合い、喜びあうことを大切にしている。同法人内にいまむらこどもえんの他、2020年4月に小規模保育園neccoきたその、2022年4月小規模保育園neccoたかつきが開園し、0歳児から2歳児、各22名の保育を進めている。

<本園の理念>

乳幼児期の保育・教育は、小学校の予備ではありません。

教えるのではなく育てるのです。

適切な養護を加え、伸び伸びとした生活を与えること、

無理のない躰け方によって良い習慣を体得させ、人格教育の素地を作ります。

将来に渡り、社会の中で子どもがその時々に分らしく幸せに生きることができるよう、愛情をもって目の前の子どもの存在そのものを受け止め、理解しようとする。潜在的に持っている個性を生き生きと引き出しながら、子どもたちが平和や自然、環境を守り他の人々や生き物と共によりよく生きるための心や行動を模索できるよう、それぞれの子どもをエンパワーする。(子ども自身がこうありたい、そうしたいと願うことが出来るよう援助する)

<本園の保育・教育目標> **生きること・学ぶことの根っこを育てる。**

今、ここにいるという存在を十分認められ、愛されていることを実感し、自分を信じる心、人を信じる心、人を愛する心(根っこ)が十分育ち、安心して自分らしく存在することが出来るよう援助するならば、自分の命も他者の命も等しく大切であるという自覚を持つ人間となると考える。

<めざす子ども像> **いのちを大切に子ども**

人は一人で生きてゆくことが出来ない。『私は私』であると同時に『私は私たち』でもある。自らの命の大切さを実感する経験をする中で、自分のためだけでなく、全ての命の大切さを知り、色々なものを分け合って共に喜びあう心を持つ人間の萌芽を育てたい。

<本年度の重点的な目標・計画>

- ①ミドルリーダーの連携を深め『チームいまむら』として各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る。
- ②各プロジェクトチームを中心に0歳から5歳の育ちを繋げ、一貫した保育・教育内容『いまむら・がいどらいん（つながるぷろぐらむ）』作成に着手する。
- ③保育者の自然に対する感度を高め、子どもや保護者と共に自然に触れる活動の質の向上を図る
- ④保護者間、保護者と職員との連携強化、コミュニティ醸成、交流の促進

<評価項目別の達成及び課題状況>

評価項目	達成状況及び課題・今後の取り組み
<p>①ミドルリーダーの連携を深め『チームいまむら』として各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る。</p>	<p>ミドルリーダー同士の連携を意識しながら日常の保育や会議等を通して情報共有を行い、課題についてはOJTや保育者同士の連携の中で解決に向けた取組が見られた。一方で、ミドルリーダーを支えるサポート体制については十分にシステム化された仕組みには至っていない面もあった。</p> <p>→組織の改編も含めミドルリーダーを支える仕組みや相談体制を整理し、「チームいまむら」として部門を越えた連携をより組織的に進めていくことが課題である。</p> <p>食育部門では、安全面に配慮しながら子どもが実際に調理の現場を訪れる機会を設け、給食や調理への興味・関心を高める取組を行った。また、昨年度に引き続き、食物の特徴や栄養素について日々のクイズ等を通して知る機会を設けたことで、赤（身体をつくる）、黄（エネルギーになる）、緑（身体の調子を整える）の食品への理解が深まりつつある。保護者に対しては、添加物に関する講演会を実施し、食への関心を高める機会となった。</p> <p>→今後は、子ども自身の気づきや実体験をさらに深めるとともに、家庭と連携した食育の取組の充実を図っていく必要がある。引き続き給食の試食会や食についての学習会、動画によるレシピの公開などを進めていく。</p>
<p>②各プロジェクトチームを中心に0歳から5歳の育ちを繋げ、一貫した保育・教育内容『いまむら・がいどらいん』作成に着手する。</p>	<p>「0～5歳 それぞれのこころのたねを育てよう」をテーマに、『つながるぷろぐらむ』、『遊び』、『わらべうた』など各チームが活動が続け、0～5歳を通してどのような子どもの育ちを目指すのかを明確にするとともに、各年齢が繋がるプログラムの具体化に向け、プロジェクトチームを中心に丁寧な話し合いを重ねた。あわせて、実践可能な部分についてはすでに実施しており、わらべうたの配信、園内交流の機会を設けるなどの取組を進めている。場所や人、物といった環境の変化に大きな違和感が生じないよう配慮しながら、子ども同士の繋がりを大切に交流を重ねており、年上の子どもには、活動の中で次年度に向けて「(この子が)自分のクラスに来てほしい」といった思いも育ち始めている。</p> <p>→今後の課題としては、これまでの検討内容を日々の保育に具体的に生かし、無理なく継続できる形へと整えていくことである。また、各年齢の繋がりやねらいについて職員間での理解を深め、園全体で一貫した保育・教育として積み重ねていくことが求められる。</p>

評価項目	達成状況及び課題・今後の取り組み
<p>③保育者の自然に対する感度を高め、子どもや保護者と共に自然に触れる活動の質の向上を図る。</p>	<p>乳児・幼児ともに、散歩や外遊び、里山活動、栽培など、身体を動かしながら自然を深く感じる活動に取り組み、子どもたちの「感じる心」を育むことに注力した。</p> <p>栽培については、教職員全員を対象にチームごとに大豆を植え、収穫量を競う取組を行った。酷暑の中での栽培は難しさもあったが、実際に経験することで、子どもが何を感じているのかを自らの体感として捉える機会となった。また、自然との共存や食べ物の大切さについて、教職員にとっても新たな学びを得る貴重な機会となった。</p> <hr/> <p>→教職員自身が、季節を感じ取る身体感覚や感受性をさらに磨いていくことが求められる。そのためにも、身近な自然について子どもたちと共に継続的に観察するなど、日常の中で自然と関わる取り組みを積み重ねていく必要があると考える。</p>
<p>④保護者間、保護者と職員との連携強化、コミュニティ醸成、交流の促進。</p>	<p>・保護者有志を中心に無理なく役割を分け合ったり担ったりしながら、バザーや絵本市、手作りグッズ販売などが実施され、好評を得た。</p> <p>また、園主催では、『いまむらファミリーの集い』として、各種ワークショップやレクチャー、給食試食会などを通し、保育内容の理解と保護者同士の繋がりを生むことができた。</p> <p>・毎日の保育のドキュメンテーションを、乳児も含めメールでの発信を始めより分かり易く保育や子ども理解に繋がるように方法を変え実施した。</p> <hr/> <p>→今後も、子どもを真ん中に据え、保護者の自主的な活動を支援していきたい。また、共に学ぶ姿勢を大切にしながら、ワークショップやレクチャーを企画し、参加者の増加に繋げていきたい。さらに、日々の保護者対応においても丁寧な関わりを積み重ね、信頼関係を深めていくことを大切にしていこう。</p>

<今後重点的に取り組む目標・計画>

- ①ミドルリーダーおよび教職員一人ひとりの実践を支えるためのサポート体制を整え、対話や振り返りを大切にしたい研修を計画することで持続可能な継承のシステムを構築してゆく。
- ②各プロジェクトチームでの検討を基盤に、0歳から5歳の育ちを繋ぐ視点を明確にししながら、一貫した保育・教育内容として『いまむら・がいでらいん』の作成を進めるとともに、実践を通して内容の見直しと充実を図る。
- ③保育者自身の自然に対する感受性を高め、身近な自然に継続的に関わる中で、子どもや保護者と共に感じ、気づきを深める保育の質の向上を図る。
- ④保護者同士および保護者と職員との繋がりを大切に、日々の丁寧な関わりを基盤として、安心して関係が広がっていくコミュニティの醸成と交流の促進に努める。

<施設評価委員による評価、ご意見>

- 保育者自己評価を通して強く感じたのは、先生方一人ひとりが日々の保育をととても丁寧に振り返り、子どもとの関わりについて真剣に考え続けておられるということです。
- 「もっとこうだった」「余裕が足りなかった」「伝えきれなかった」といった正直な言葉が多く並んでいて、形だけでなく、振り返りを大切にする文化がしっかり根づいているのだと感じました。
- これは、園としての大きな強みだと思いました。

<施設評価委員による評価、ご意見> つづき

- 保護者アンケートからは、園の理念や日々の保育に対する深い信頼と感謝の気持ちが数多く回答されていると思いました。「いまむらこどもえんに通えて幸せ」「卒園後も応援したい」といった言葉から、園が単なる保育の場を超えて、家庭や地域にとって大切な存在になっていることを改めて感じました。
- 園が大切にしている保育の考え方や関わりの意図を、日常のやりとりや発信の中で少しずつ言葉にして共有していくことが、保護者の安心感をさらに深めていくのではないかと思います。
- 自己評価の評価項目が多岐に渡って分類されており、先生方に求められる事柄の多さに、本当に難しいお仕事だなというも感心します。先生方も真摯に取り組んでおられる事が伺えて、しっかりした組織・土台が作られた上に成り立っている、今村学園の保育だと感じました。
- 一般職員自己評価について、対象職員数、自己評価提出者数を明示して、アンケート回収率も記載していただくと、より結果から読み取れることが増えると思います。また、あわせて、自己評価期間(いつ配布し、締め切りはいつだったか)も記載していただければと思います。
- 保護者アンケートについては、68件寄せられたとのことで、そのクラスから意見が多く出たかはわかるのですが、対象保護者数や、各クラスの保護者数なども記載していただけると結果から読み取れることが増えます。また、アンケート期間も記載していただければと思います。
- 保護者の方々には、「いまむら」に通わせてよかったと思うことは、というような自由記述で保護者のほうからいいと思われる点、保護者が「いまむら」の何に魅力を感じてくださっているのかを記述していただくのも、新たな発見につながると思います。
- チームワークについて、自分の仕事以外に組織全体を考えた仕事ができなかったと考えておられる職員の方がおられる割合が勤務年数が少ない方ほど多いようですが、経験を積まれれば解消されていることがわかりました。なかなか難しい課題だとは思いますが、できるだけ、組織全体業務を職員全体で共有できるように、工夫して下さい。
- 1・2年目の方が自分に厳しく評価されていること、また、自由記述欄で来年度に向けて書かれていることから、これからの「いまむら」を担って下さるのではと、期待しています。
- 記述された自己評価からは、職員のみなさんが、自分自身も「いまむら」も、現状に満足せず、さらに良い保育の実践をめざして下さっていることが伝わってきました。職員間のチームワーク、保護者の皆さんとの関係を大切にしながら、これからもがんばってください。
- 保護者アンケートの中で「いまむらイズム」という言葉がありましたが、全体を通じて、その言葉通りの一貫した想いと主張を感じました。
教職員のアンケートの質問項目自体が、「子どもを中心に」「一人ひとり個性的な子どもがその子らしく育つために」という視点が貫かれており、それに対して、勤務経験の長短によって達成度の違いはあるものの、真摯に伝えようとされていることが伺えました。また、教職員のチーム力を大切にしようとする姿勢(近年注目されている概念でいえば、リスペクト型マネジメントを目指した質問項目とそれにこたえようとする回答内容)が貫かれていると感じました。それぞれについて課題はあるとは思いますが、目指したい教職員集団像が共有されていると感じました。こうした項目で自己評価を実施されること自体が、園の中で共有される価値観(園文化)を作ることに寄与していると感じました。
- 保護者アンケートについても同様であり、自由記述においても、園の方針をよく理解した上での記述が大半であることから、園として目指すものが全体として共有されていると感じました。
今後も、今村学園としての理念を大切にしたい取り組みが継続され、園文化として定着することを願います。

<財務状況>

監査法人の監査を受け妥当であると認められた。